

教育目標 【生徒像】 志高 創造 自立	地域社会と産業の発展に寄与する人間の育成 真理を探究する人間の育成 豊かな感性と創造に富む人間の育成 心身ともに健全で、正義感あふれるたくましい人間の育成
---------------------------------	--

中期目標 【学校像】	生徒個々の「いのち」が輝く教育を実践する。 キャリア教育の充実を通して進路希望の実現に努める。 農工一体の教育活動の充実を努める。 地域に開かれた信頼される学校づくりに努める。
---------------	---

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

領域	重点目標	実践事項	成果と課題	自己評価	次年度への改善策	学校関係者評価委員からの意見等 実施日 平成23年2月17日	評価
学習指導	学習指導の充実	1 授業第一主義を基本に据え、適切なシラパスの作成、指導法の研究、教材の精選に努める。	学年毎にシラパスを作成・提示したが、活用が課題。校内授業研究を実施したが参観者が少なかった。生徒からの授業評価を2回実施し、改善に努めた。	B	生徒個別の指導で学ぶ意欲を高め、「わかる授業」の実践と公開により、基礎学力の定着・向上を図る。	・学習習慣に課題があるならば宿題を出すことも方法ではないでしょうか。家庭学習不足の改善に向けて検討する必要あり。 ・目的意識の高い生徒と希薄な生徒の差が大きくなっている状況が見られる。特に希薄な生徒への手立てが必要と感じられる。 ・産業高校としての学校のあり方、方向性など考慮し、良く指導していると感じる。特に、資格、検定取得への取り組みは、是非継続実施して欲しい。 ・研究発表会は年々レベルが高くなり、今後も楽しみである。	B
		2 予習・授業・復習の学習サイクルの確立に努め、家庭学習量の増加を図る。	教科毎に課題を与えたり、学習ノートを活用するなど学習習慣の確立を目指してきたが、生徒・保護者のアンケート結果からも、家庭学習の不足に課題が見られる。	C	朝学習や基礎力診断テストを活用し、一人ひとりの進路指導につなげながら学習習慣を確立する。		
		3 教科会や研究授業の充実を通して、考える授業の実践など教科指導力の向上に努める。	授業アンケートを2回実施し、教科毎に授業の改善を図った。毎日、教材資料を作成・配布して興味関心を持たせ意欲を喚起したり、放課後等の補習を実施した。	B	授業公開の実施、成績不振者への手立てを講じながら「わかる授業」の実践を継続し、共通意識を持って取り組む。		
		4 朝学習、校内検定に取組、基礎学力の向上と学習環境の確立に努める。	全校朝学習に取組み、基礎学力向上に努めた。遅刻者の減少や授業へのスムーズな導入が図られたものの、目的意識による差が見られ新たな課題となった。	B	朝学習の効果的な面を活かしながら、さらに個々に目的意識を高め、全員がほぼ所定の学習段階に到達できるようにする。		
		5 図書館の利用を拡大させ、読書を通して心豊かで、思いやりのある生徒を育成する。	年度目標の1人4冊の数値目標には届かず、2.5冊にとどまった。読書感想文の取組も遂行され、外部コンクールで入賞できた。さらなる利用拡大が望まれる。	C	朝読書を効果的に実施し、読書習慣を継続させる。また、図書館利用の促進とマナー指導にも取り組む。		
		6 資格取得の一層の向上に努め、確かな専門力を身につけさせる。	初の技能検定2級に3名合格者を出し、3級も含め大幅に合格者が増加した。ジュニアマイスター顕彰のゴールドとシルバーの認証を受けた生徒も増加した。	A	技能検定の受検者を増やし、その補習や外部講師による講習会を実施し、より多くの合格者を出す。		
		7 課題研究等の充実と深化を図り、課題解決学習と発表力を育成する。	3学年各々が年度末に発表会を実施し、特に全校での研究発表会では関係機関の方々から内容や発表方法も年々良くなっているとの講評を得た。	A	全体の基礎技術の向上を図りながら、より高いレベルの研究活動を実践し、より多くの生徒の発表力を向上させる。		
生徒指導	生徒指導の充実	1 規範意識の向上に努め、品位ある高校生活を確立する。	朝学習の実施で、前期は遅刻者が少なかったものの後期は増加傾向にあった。また、問題行動も多発し、特に繰り返す状況が見られた。	C	家庭・保護者との連携を図りながら、共通理解を持ち進路指導と一体化した学級・学年・全校での指導を展開する。	・親の考え方、モラルなど社会道徳感と学校指導との間に温度差が見られる。保護者へのさらなる理解が必要 ・身だしなみの点で粘り強い指導が改善に至っていないのは残念。実社会の厳しさを踏まえた指導が必要。 ・自転車のマナーの悪さが集団時に目立つ。大事故になる前の早めの指導が必要。	C
		2 爽やかな挨拶、身だしなみ、携帯電話の使用や清掃等の適切な指導に努める。	定期的な服装等の検査・指導を6回ほど実施。また、PTAとの協力を得ての挨拶運動を3回ほど実施。その場限りの改善に苦慮している。	C	PTAや生徒会のあいさつ運動が全体的なものになるよう、一人ひとりが課題意識を持ち取り組む運動にしたい。		
		3 交通安全指導の強化によりマナーアップを図り、事故を未然に防止する。	生徒指導部を中心に街頭指導・列車指導を数回実施。自転車によるマナーの悪さが指摘されたり、運転技能の不熟さによる事故が数件あった。	C	列車通学、自転車通学によるマナーアップをさらに向上させるべく、生徒会や委員会を巻き込んでの街頭指導を計画し実施する。		
特別活動	生徒会活動・学校行事・校外発表等の充実	1 感動的な行事を計画・実践することによって、本校への帰属意識を高める。	産業田植え競技会、体育祭、学校祭、産業高校展等と今年度も大変な盛り上がりを見せ、生徒や保護者の本校での生活満足度も高かった。	A	本校独自の行事をさらに発展させ、自信と誇りを育み学級や学科、全校のまとまりとなるように工夫していく。	・専門高校らしい大会で、全国大会を目指すことは大きなことで、どんどん伸ばして欲しい。 ・さすが産業高校だと思ふ所有り、卒業後も誇りを持ち頑張ってくれることが期待できる。 ・発表会のような活動は充実しているが、部活動はバツしない。生徒数が多い割には物足りなさを感じた。	A
		2 人間形成を果たす部活動、生徒会活動、ボランティア等の充実を図る。	インターハイ出場はなかったものの、農業クラブや機械技術部、学科での東北や全国大会出場があった。また、生徒会や部単位でのボランティアも実施した。	B	教育後援会の支援を受け、部活動の活性化と強化を図る。また、専門分野での活動も支援し、全国大会へ多く出場させる。		
		3 地域と連携した活動により、学校活動の発表と情報発信に努める。	もがみ大産業祭り、研究発表会、出前測量、各種農産物出品などで本校の学習活動の一端を披露しながら、情報紙「自由のつばさ」、「共生」などでも発信に努めた。	A	「特色ある高校づくり推進事業」を活用し、本校の学習活動を広く地域に公開しながらアピールをしていく。		
進路指導	進路指導の充実	1 キャリア教育の3本柱「人づくり」「学力づくり」「ものづくり」の推進により、意欲に満ちた人材を育成する。	全校朝学習の取組、2学年インターシップ(四日間)、企業・施設・現場見学会、各種進路講話・ガイダンスによる職業感、勤労観の育成に取り組んだ。	B	専門高校としての特色を活かし、生徒個々の進路希望に沿いながら社会で生きていくための力を実体験の中で育てる。	・早い時期から生徒の希望に沿いながら進路内定100%を目指して欲しい。 ・職業に対する取り組みは認めつつも、三者面談、四者面談の回数が少ないように感じる。 ・専門学科を学びながら、卒業時にその関係の仕事に就業出来ない現実があるのは残念である。	B
		2 進路内定率100%に向けて、一人ひとりの進路指導を充実させる。	担任・学科による早期の面談、学年の緊急保護者説明会、放課後や長期休業での補習、企業開拓、情報発信などに取組み全体で約90%以上の進路内定を得た。	B	自己理解を始め、各学年に応じた進路ガイダンスや講話の実施、適切な進路情報の提供ときめ細かな面談を実施し、実現につなげる。		
		3 国公立を含めた四年制大学等への進学実績の向上に努める。	昨年以上の就職難を反映し、進学に切り替える生徒もいるものの、国公立進学が皆無で私学や専門学校への進学が増加した。(センター試験受験8名)	C	進学希望者に対応した早期の意識付けと指導体制の構築をはかり、各種外部模試や添削指導を重ね進路実現に結びつける。		
保健安全	安全管理と健康管理の推進	1 教育相談やスクールカウンセラー等の活用により、不適応傾向生徒に対する支援体制を充実させる。	定期的な委員会の開催とスクールカウンセラーを交えた情報交換、さらに定例職員会議で情報を共有し、学年を中心に支援策を講じてきた。	B	全職員による気になる生徒の情報共有化とその支援をスクールカウンセラーの助言も活かしながら取り組み、退学、休学者を減らす。	・校内・外の環境、施設は優れているものの、退学者及び休学者の数が多いいのは問題である。 ・最近、携帯電話がないと不安とか、心の病になりかねない状況が見られる。その点が心配される。 ・多様な生徒が入学し、生徒個々の抱える課題も様々の状況が見られる。関係機関との連携で支援を。	B
		2 施設・設備の安全管理を徹底し、生徒の安全、教職員の安全、学校の安全に努める。	毎月始めに全職員で校内安全点検を実施し、施設・設備の危険箇所や修繕箇所を把握し改善に努めた。施設設備を大事にし、安全意識を高める粘り強い指導が必要	B	毎月校内外の安全点検を実施し、その都度不具合箇所の把握と修繕に努める。同時に、物を大事にし共有使用している意識を高めよう。		
		3 委員会活動を活発にし、校内の環境整備、清掃活動に努める。	保健委員会を中心に、校内外の環境整備や清掃活動の点検と広報活動を行ってきた。また、清掃強化週間を設け環境美化に努めてきたが、所々課題が見られた。	B	学習環境の整備・美化の啓蒙活動を生徒委員会を活かしながら進め、常に気持ちの良い学習環境を皆が意識し作り上げる。		
地域連携	保護者・地域との連携強化	1 PTA総会等の出席率を高め、保護者や地域との連携を強化する。	PTA総会も地区PTAも参加率が30%と低調であった。挨拶運動や学校祭でのPTA企画で大変ご協力を頂き、好評であった。より多くの保護者の参加が望まれる。	C	より多くの保護者の参加を促す方策と時期を考え実施する。また、全学級PTAの開催を実施し、保護者との連携をさらに図っていく。	・PTA役員だけでなく、多くの保護者が参加できるようにクラスの集まりも必要ではないでしょうか。 ・PTA役員会などは参加率が高いものの、総会や地区Pの参加率が悪すぎる。さらなる検討が必要。 ・高校生ともなると小、中学生とは違い、連携関係が難しくなり強化までには至りにくい。	B
		2 広報誌やHPによる情報提供を活発にし、学校活動の理解を深めてもらう。	各種学校情報誌を発行し、学校理解に努めた。しかしながら、紙面では保護者に完全に届かない課題が見られる。ただし、地域連携活動の認知は広がっている。	B	学級・学年・学科・分掌・学校での各種情報誌の発行を今後も継続し、学校理解と保護者や地域との連携に結びつけていく。		
		3 ものづくり産業担い手育成モデル事業などを活用し、地域の産学官との連携を強化する。	3年目を迎えた本事業で、関係機関の協力を得ながら成果発表することが出来た。全体的には大きな成果が見られたが、さらなる底上げを図る必要性を指摘された。	A	これまで構築してきた関係機関との連携をより強固なものにし、さらに新たな連携を模索し底辺拡大に努める。		